

# 沖縄県立中部病院



沖縄県立中部病院は、県内7つの県立／公立病院を束ねる中核病院として、地域医療の中心的役割を果たしています。救急病院、後方病院として期待されていることから、安定期の維持透析患者よりむしろ、合併症／重症／緊急の透析患者が多く、24時間透析体制で対応しています。また、研修医制度を充実させて、離島医療の支援に力を入れているのも中部病院の特徴です。

## 24時間透析体制をとりつつ、離島医療を支援

### 離島医療を支える 研修医制度

中部病院では、離島医療を支援するための研修医制度が整備されています。この制度が始まったのは1967年。当初は地域の医療過疎状態を早急に解決するために、プライマリケアのできる医師の育成に重点が置かれていました。現在は専門性の育成にも力が入られています。「研修医は、最初の2年はプライマリケアに必要な総合的知識、後半の2年は専門的知識を学びます。その後、1年以上の離島勤務を経て、再び中部病院で後期研修を受け、専門医

資格試験にチャレンジしていただきます」と上原腎臓内科部長。

県との契約で、離島勤務は1年以上と義務づけられていますが、実際には2〜3年行われることが多いとのこと。これまでに18名の医師が離島医療に携わり、8名が腎臓内科専門医の資格を取った実績が示すように、離島医療支援に大きく貢献しています。

### ダブルチェック体制 スタンダード治療で 安全性重視

透析室が開設されたのは1982年。87年には腎移植も開始され、CAPDなども



沖縄県立中部病院  
所在地 ● 沖縄県具志川市字宮里281番地  
透析台数 ● 24台  
透析関連スタッフ ● 18名  
患者数 ● 85〜90名

行われるようになりました。上原部長は、「合併症／重症／緊急の透析患者さんを受け入れられているので、患者さんの入れ替わりが多い状況です。救急が入れば、その日の透析予定が急に変更になるので、スタッフにはいつも無理なお願いばかりしてしまいます」と現状を報告。

多忙な現場で「最も重要なのは、安全。」という渡嘉敷看護師長は「使用前・使用中・使用後の機械点検はチェックリストを用いてダブルチェックで行っています」と安全対策の重要性を強調されました。また、上原部長からは、「スタンダードとされている治療